

# 西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.93 2013年5月号

以前の「毎日楽しく」で、女子サッカーワールドカップで活躍したなでしこジャパンを例に、「オンリーワン」ももちろん大切ですが、やはり「ナンバーワン」を目指して努力する姿に人は感動せずにはいられないという話を書いたことがあります。結果はもちろん大切ですが、ナンバーワンを目指して努力する姿勢も賞賛されるべきではないでしょうか、という内容でした。ただ、サッカーなどのスポーツであればその大会などにおいて優勝することがすなわち「ナンバーワン」ですから、その定義ははっきりしていますが、私たちの日常生活や仕事における「ナンバーワン」の定義は、実はスポーツの勝敗ほどにははっきりしていないものかもしれません。

たとえば、仕事でナンバーワンを目指すだけだった場合、同業他社と比べて最も多い売上をあげることを目指すのか、従業員の数が最も多いことを目指すのか、それとも利益の額が最も多いことを目指すのか、あるいはそのすべてでナンバーワンを目指すのか、何で一番になるのか実ははっきりしません。また、そのナンバーワンも会社が所在している地域で一番なのか、それとも日本一なのか、あるいは世界一なのか、どこで一番なのかという問題もあります。もちろん、目標をたてるときにはこうしたことを具体的に「〇〇で1番になる」というようにナンバーワンの定義を明確にする必要がありますが、要するに、仕事では目指すべきナンバーワンがたったひとつしかないわけではないということなのです。

売上や利益、従業員の数など、目にみえる形で一番を目指すのは、スポーツと同様目標がはっきりしていて、達成できたかどうかを検証する上でもこうした目標はもちろん必要だと思います。ただ、会社の究極的な存在意義が人を幸せにすることだとすれば、たとえば、楽しい職場で日本一を目指す、とか、離職率の低さで日本一を目指す、といったナンバーワンがあってもいいような気がします。

会社が成長すれば職場環境も良くなるでしょうし、そこで働く人の給与も上がるでしょうから、単純に考えると売上や利益などで一番を目指すことが人を幸せにすることにつながりそうではありますが、そうした会社の中には必ずしも従業員の人たちが幸せそうに見えないところもあるようですが、みなさんはどう思われますか？

